

令和7年度鳥獣保護管理に係る人材育成研修

群馬県の二ホンジカ管理と農林業被害対策



群馬県鳥獣被害対策支援センター

3分動画 <https://www.youtube.com/watch?v=pccPIJt5yIs>

講義の流れ

- 1 群馬県の鳥獣被害対策の体制、県計画、被害の概要
- 2 ニホンジカによる林業被害と被害対策
- 3 ニホンジカのモニタリング
- 4 ニホンジカの農業被害と県の施策の紹介

群馬県の鳥獣被害対策の推進体制

「捕る」

- 市町村と連携した計画的な捕獲、IOTを活用した捕獲圧の強化
- ・ 生息調査に基づく計画的な捕獲推進
 - ・ 指定管理鳥獣捕獲等事業
 - ・ 林業者等の捕獲支援、市町村の捕獲取組支援、担い手の捕獲技術強化など



「守る」

地域主体・地域ぐるみの被害対策を総合的に支援

- ・ 鳥獣害に強い集落づくり支援
- ・ 鳥獣被害防止総合対策交付金
- ・ 農林地等の野生鳥獣侵入防止対策
- ・ 河川養豚場周辺の緩衝帯整備など



「知る」

技術開発等による効果的な被害対策、体系的な人材育成

- ・ 被害対策人材育成研修
- ・ 広域捕獲の推進
- ・ ジビエの利活用
- ・ 日本獣医生命科学大学との連携
- ・ 獣類被害対策の管理手法の開発など



群馬県の鳥獣被害対策の推進体制

鳥獣被害対策本部

- ・ 鳥獣被害対策の情報共有
- ・ 野生鳥獣被害対策の方針決定
- ・ 部局を横断した取組の推進

【対策本部の体制】 年1回開催

本部長 : 副知事

副本部長 : 鳥獣対策担当参事

本部員 : 農政部長、関係部長

【推進会議の体制】 年2回開催

会長 : 鳥獣対策担当参事

副会長 : 林政課長、蚕糸特産課長

構成員 : 自然環境課長、農業事務所長、ほか

(事務局 : 鳥獣被害対策支援センター)

地域鳥獣被害推進会議

- ・ 農業事務所毎に設置
- ・ 取組方針の情報を共有
- ・ 連携して被害対策を推進

【地域対策推進会議の体制】

会長 : 農業事務所長

副会長 : 環境森林事務所長

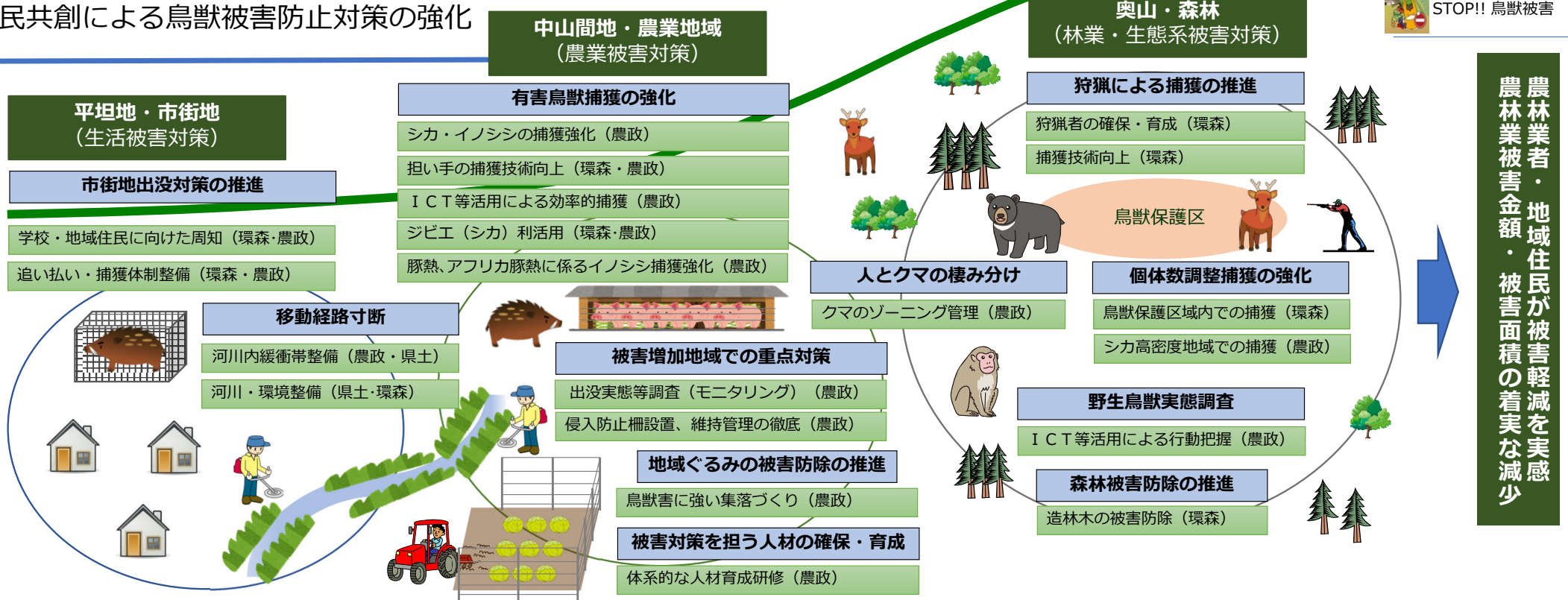
県 : 農業事務所、環境森林事務所
土木事務所、保健福祉事務所

(検討事項により参加)

市町村、森林管理署、関係団体 (JA、猟友会
森林組合)、警察署等

令和8年度野生鳥獣被害対策の取組の方向性

官民共創による鳥獣被害防止対策の強化



令和7年度取組方針

- 豚熱、アフリカ豚熱に係るイノシシ対策の継続
- 捕獲を中心としたシカ被害対策の強化
- 加害獣種に対応した適切な被害対策の推進
- 捕獲の担い手の確保、育成とD Xの普及推進
- ジビエ (シカ) 利活用の拡大
- 人とクマの棲み分け

実施

現状及び課題

- 養豚農場における豚熱が続発
- 農林業被害の多くを占めるシカ対策が急務
- 農業では複数獣種による同時加害が発生
- スキルを持った捕獲者の高齢化
- ジビエ (シカ) の安定供給と需要の開拓等が課題
- 人とクマとの軋轢が増大

対応

令和8年度取組の方向性

- 豚熱、アフリカ豚熱に係るイノシシ対策の強化
- シカの高密度地域における捕獲の強化
- 加害獣種に対応した適切な被害対策の推進
- 捕獲の担い手の確保、育成とD Xの普及推進
- ジビエ (シカ) 利活用の拡大
- 人とクマの棲み分け

鳥獣保護管理法に基づく計画制度

国
基本指針



県
鳥獣保護事業計画
特定鳥獣管理計画

群馬県管理計画

ニホンジカ
イノシシ
ツキノワグマ
ニホンザル
カワウ
カモシカ

- ・ 農林業被害の軽減
- ・ 生態系の保全
- ・ 個体群の適正な管理

個体群
管理

被害防
除対策

生息環
境管理

モニタリング
結果の評価
計画の見直

ニホンジカの特徴

○ 体格 (ホンシュウジカ)

頭胴長

オス:90~190cm
メス:90~150cm

体重

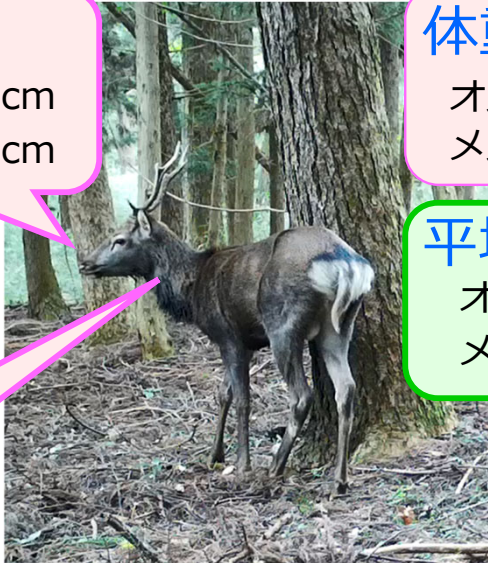
オス:70~90kg
メス:40~50kg

平均寿命

オス:4~6才
メス:6~8才

肩高

100cm前後



○ 食性

シカは草食性

何でも食べる(1000種以上)

→ 雑草もシカにはごちそう
餌のない時期は落ち葉も食べる

○ 行動

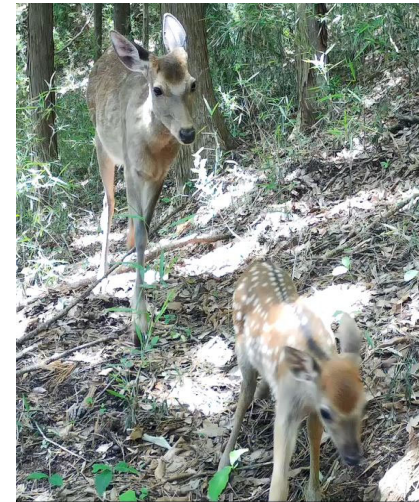
1.5m以上跳躍可能
潜り抜けが多い

臆病で警戒心が強い
通常は群れで行動

○ 繁殖生理

シカは**繁殖力が高い**
理由として…

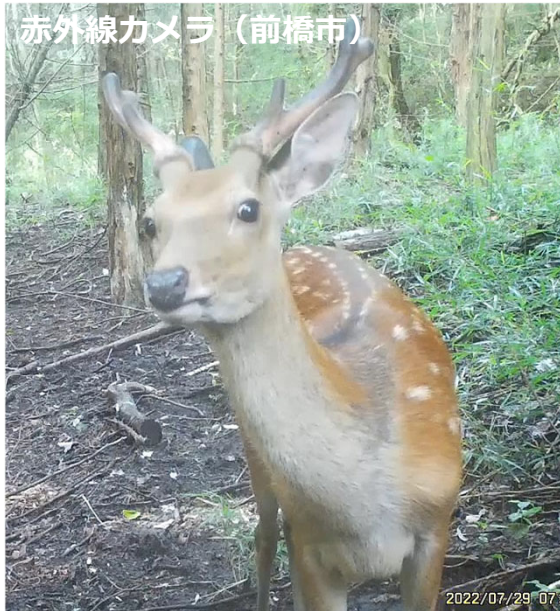
- ・ 性成熟が早い(1才)
- ・ 高い妊娠率
一才で70%が妊娠
高齢でも妊娠率が高い
- ・ 一夫多妻



軋轢を生むニホンジカ

ニホンジカ
(Cervus nippon)

近年の高密度化・広域化で問題発生



市街地出没



農作物被害



森林生態系被害

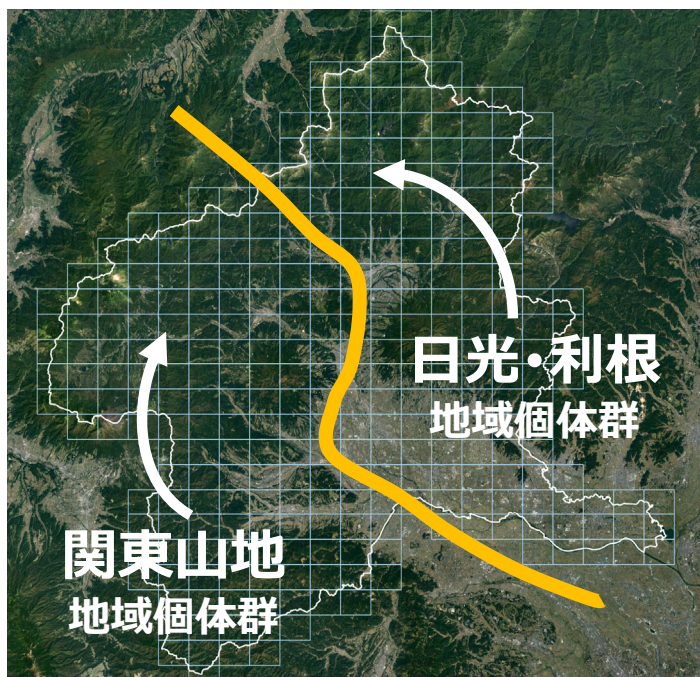


低密度であれば
問題なし！！

第六期二ホンジカ適正管理計画（R7.4～R12.3末）

□計画の目的

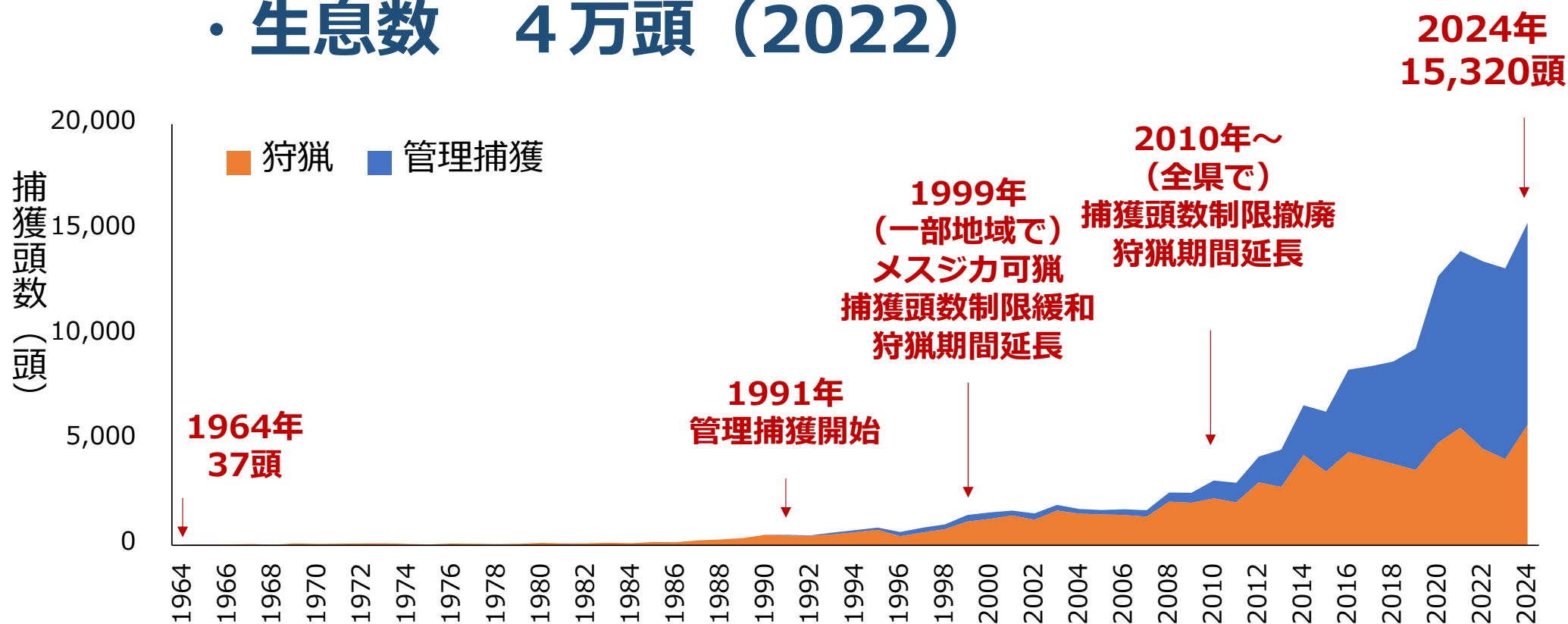
科学的・計画的な管理により、二ホンジカの生息密度を低減させる「個体群管理等」を実施することで、農林業被害の減少及び自然生態系の保全を図りつつ、地域個体群の健全な維持を図ること



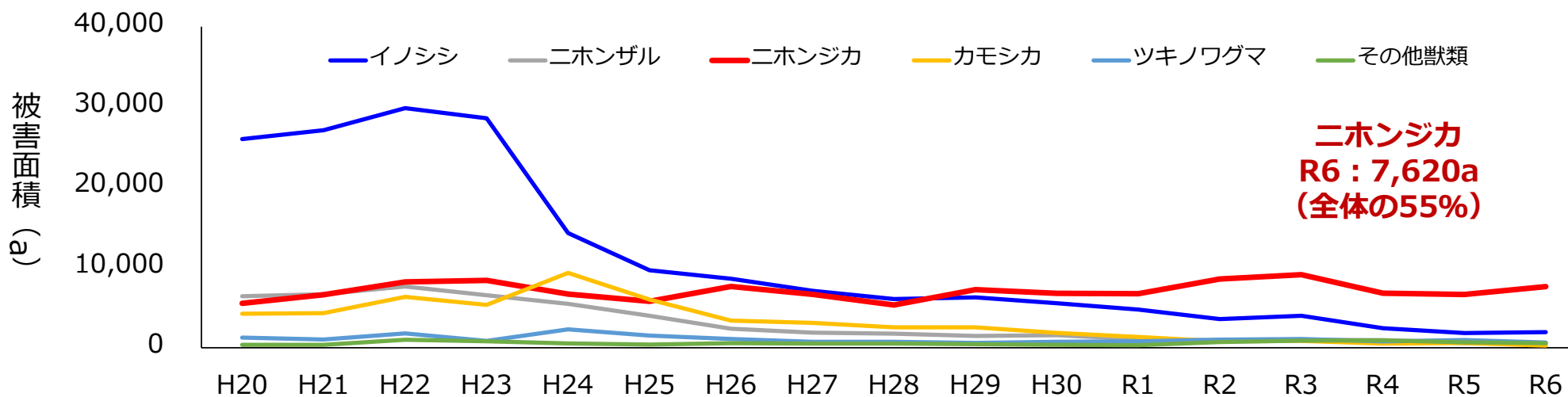
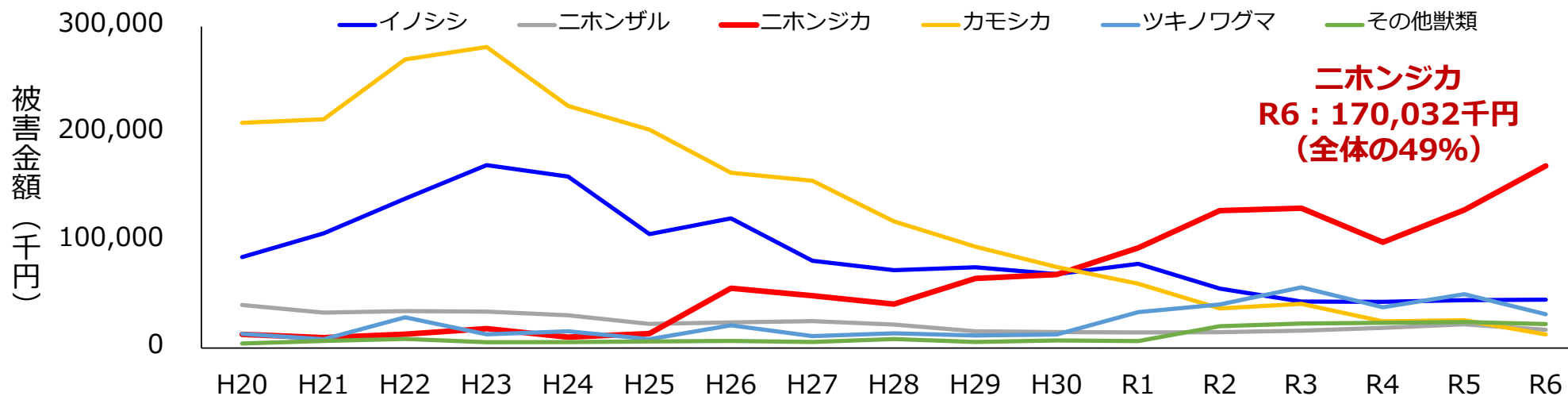
- ・ 生息数 4万頭（2022）
- ・ 捕獲目標頭数 1万8千頭／年
- ・ 農業被害額 5千万円以下
林業被害額 1億円以下

ニホンジカ捕獲頭数の推移

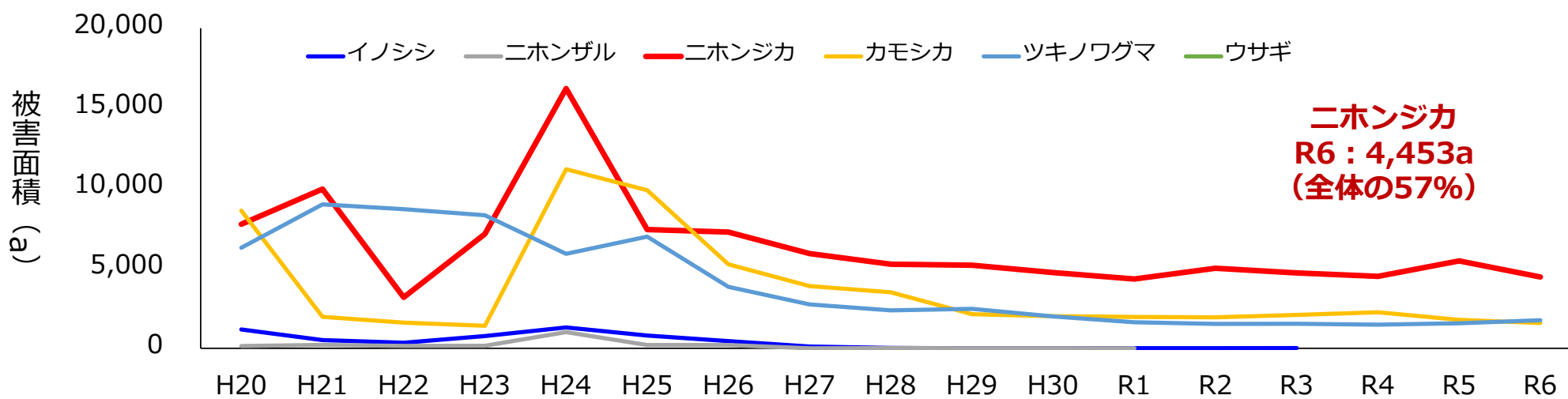
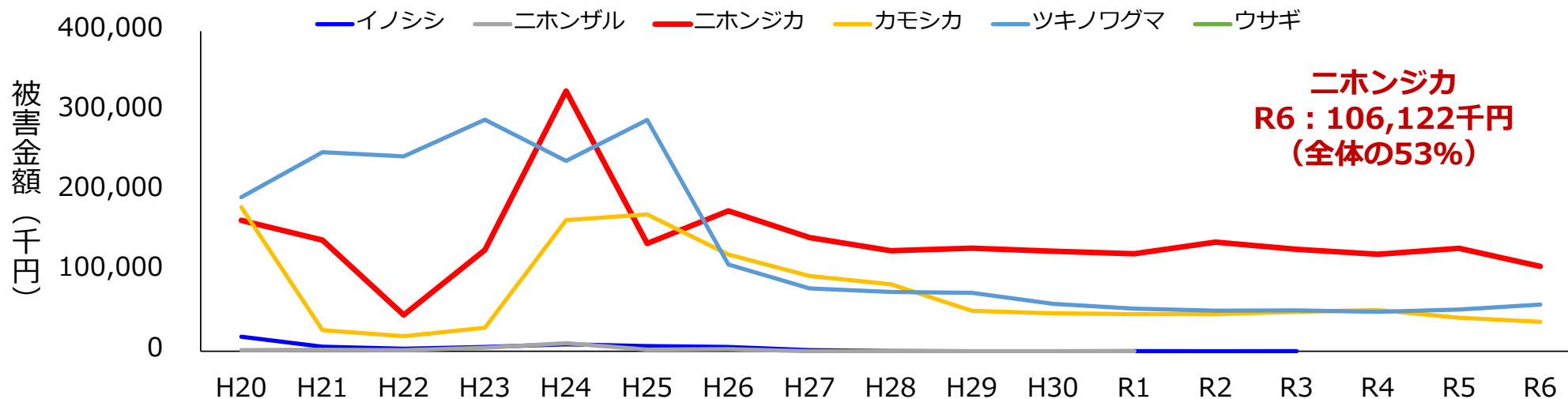
- 捕獲目標頭数 1万8千頭／年
- 生息数 4万頭（2022）



農業被害額及び面積

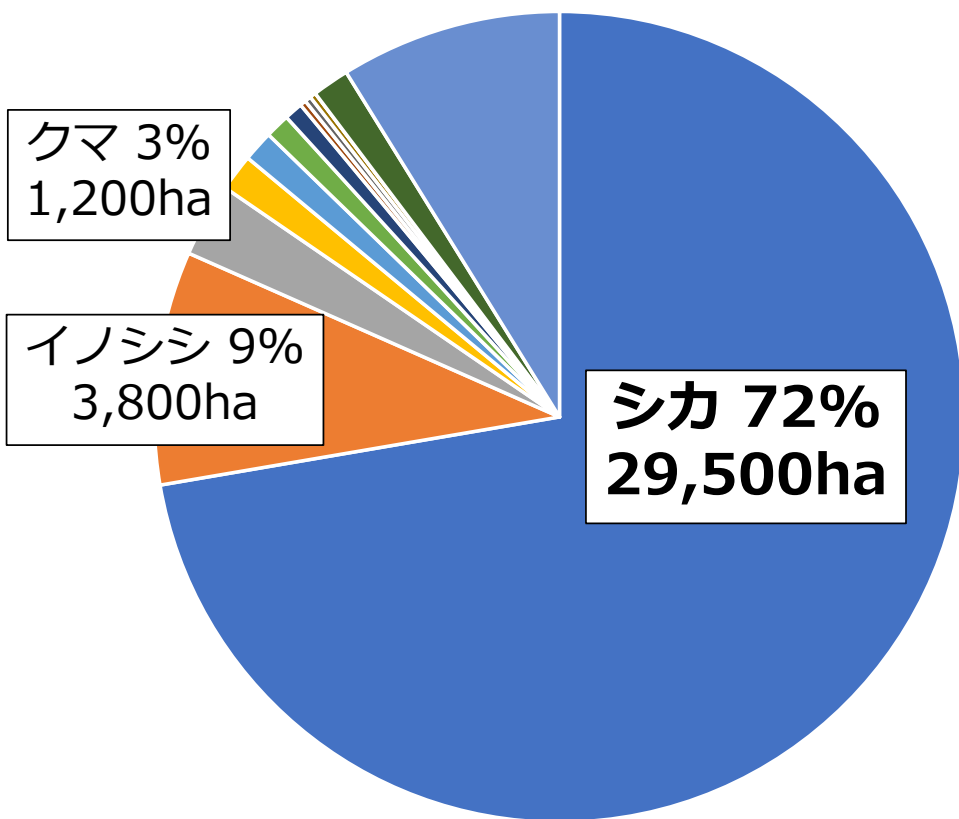


林業被害額及び面積



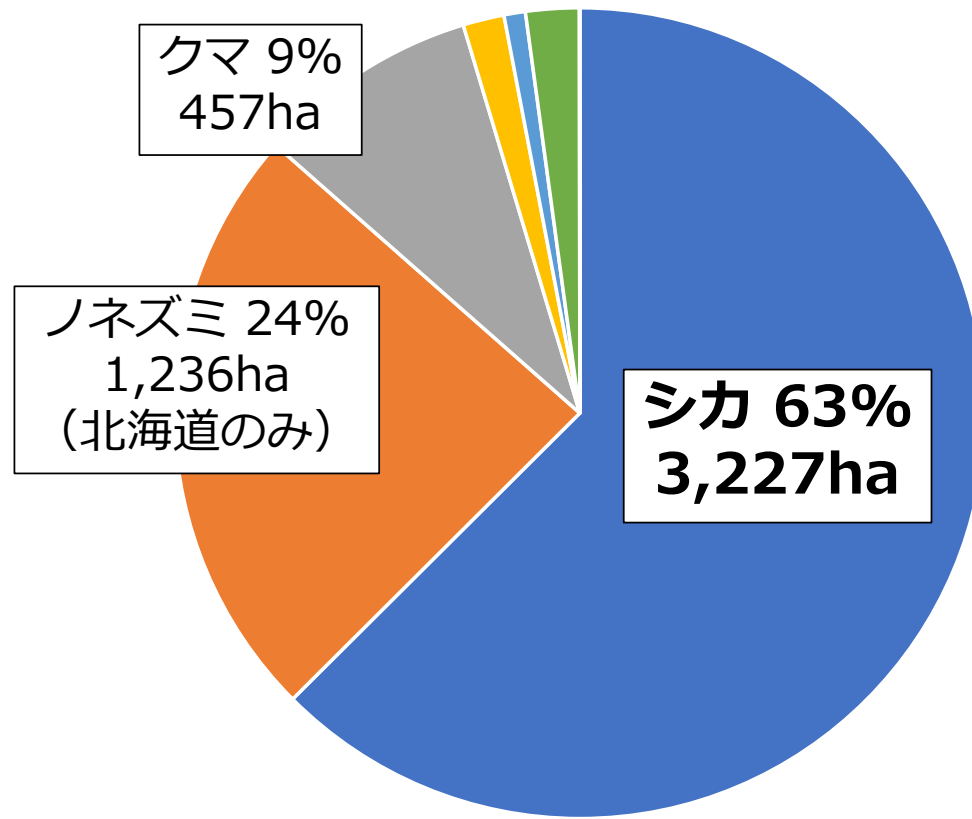
令和5年度 全国獣種別農林業被害面積

農業被害面積計 40,900ha



出典：農林水産省

林業被害面積計 5,160ha



出典：林野庁

講義の流れ

1 群馬県の鳥獣被害対策の体制、県計画、被害の概要

2 ニホンジカによる林業被害と被害対策

3 ニホンジカのモニタリング

4 ニホンジカの農業被害と県の施策の紹介

- **被害形態**

食害、樹皮剥ぎ、
角擦り…

- **被害対策**

忌避剤、防除柵、
単木資材…

ニホンジカによる被害形態

① 頂部・枝葉の食害について

頂部・枝葉食害概要

- 発生期間
1 齡級（5 年生）まで
は頂部食害発生恐れ
- 発生時期
後述する剥皮害とは異なり、シカの生息地では植栽直後から常に被害を受ける。



植栽直後に食害を受けたスギ

頂部・枝葉食害状況（コンテナ苗）



頂部・枝葉食害 シカの採食動画



15°C ● 06/04/2020 06:43PM CAMERA2

頂部・枝葉食害 発生高さ

シカの口の届く約1.5mまで
(ディアライン)



尾瀬ヶ原の食害



湿地に残る獣道



痕跡：糞



食害されたミズバショウ



痕跡：足跡

ニホンジカによる被害形態

② 樹皮剥ぎについて

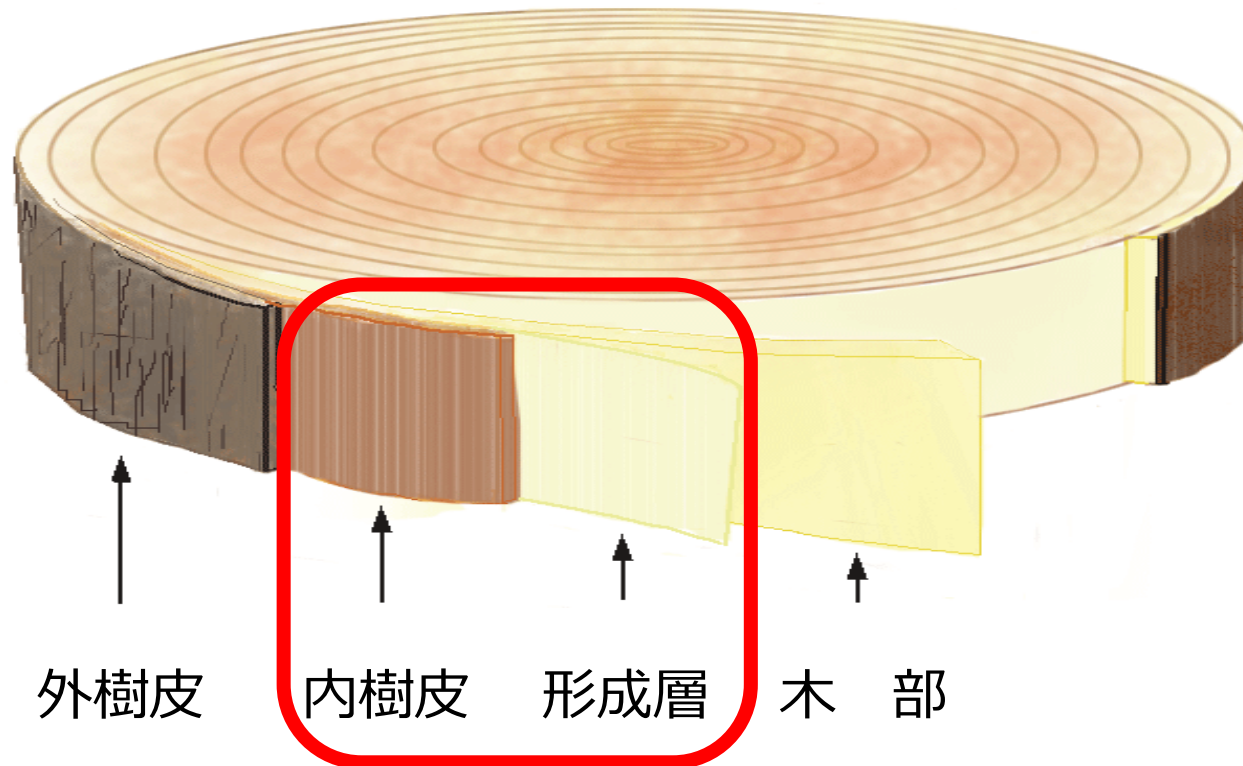
樹皮剥ぎ概要

- 発生期間
1 齢級（5年生）から伐期まで
継続して発生。
- 年間発生時期
4月（38.7%）と10月（12.5%）
の発生が多い。
- 被害部位の特徴
地上から70cm前後の位置が被害
発生の起点。200cm程度まで被害
を受けることもある。
幹周被害率は平均30%未満だが、
枯損が多い。



樹皮剥ぎを受けたヒノキ

樹幹の内部構成



シカは主にここを食べます！！

シカの歯



シカの前歯

シカの前歯

- 歯は下顎のみ
- 上顎は堅くなった歯茎(歯床板)のみ



カモシカの前歯

樹皮剥ぎ (春～夏)



樹皮剥ぎ (秋～冬)



樹皮剥ぎ (広葉樹)



シカの樹皮剥き動画

02/11/2017 15:14:09
15 Sec



二ホンヅカによる被害形態

③ 角擦り、角研ぎについて

角擦り概要

- 発生期間
1 齢級（5年生）から伐期まで
継続して発生。幼齢木が多い。
- 年間発生時期
10月（48.2%）の発生が最も多い
- 被害部位の特徴
地上から60cm前後の位置が被害発生
の起点。160cm程度まで被害を
受けることもある。
幹周被害率は平均30%未満
全周剥皮率は42.6%と高い（枯死率
が高い）。



ヒノキ

角の一生



角擦り、角研ぎ動画

11/30/2016 07:20:39
10 Sec



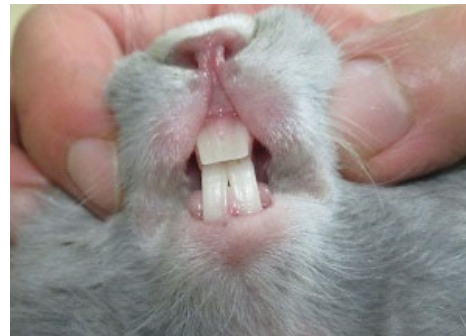


角擦りにより全滅した植栽地

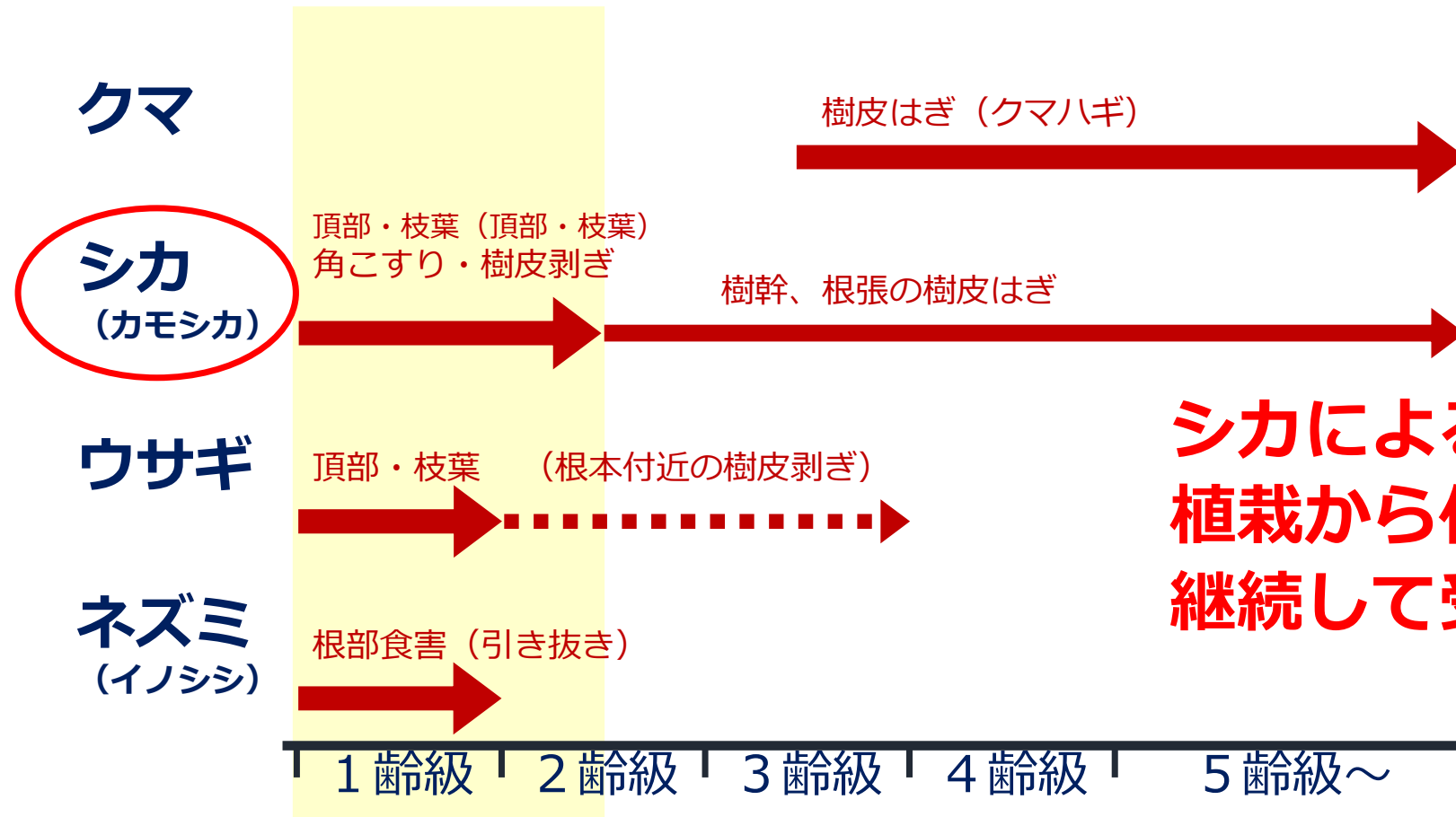


ヒノキ

その他獣種の被害



森林獣害の発生推移



シカによる被害は、
植栽から伐期まで
継続して受ける